

平成30年 7月11日（水）
（公財）石川県埋蔵文化財センター
担当：調査部特定事業調査グループ
主幹 中屋 克彦
電話：076-229-4477

ようかいちじかた えつ てつせいやりがんな
小松市八日市地方遺跡出土「柄付き鉄製 鉈」の特別公開について

昨年6月に小松市八日市地方遺跡から、国内で初めて出土した、柄が完存する弥生時代の鉄製鉈について、保存処理が終了しました。

つきましては、石川県埋蔵文化財センターにおいて、下記のとおり特別公開を実施します。

記

1 特別公開

- (1) 期 間 平成30年7月20日（金）～29日（日）の10日間
午前9時～午後5時
- (2) 場 所 石川県埋蔵文化財センター展示室
（金沢市中戸町18-1）
- (3) 内 容 保存処理を終えた「柄付き鉄製鉈」の実物と解説パネル等の展示

2 「柄付き鉄製 鉈」について

(1) 主な特徴

柄が完存する鉄製鉈で、全長16.3cm、柄の長さ13.9cm、太さ（柄の端部）3.5cmを測る。鉄の部分は長さ5.1cmで、柄の中に2.7cm挟み込まれている。刃部は三角形で、その両辺に刃がつき、幅1.9cm、厚さ2mm。

柄はイヌガヤ属の芯持ち材を利用し、上半部を二枚合わせにして鉄製鉈を挟み込み、糸を巻いて固定した上から、更にテープ状に加工した桜の樹皮紐を巻き付けて固定している。

(2) 時 期

時期は、共伴する土器の型式から、弥生時代中期前半（約2,300年前）と判断される。

(3) 出土意義

今回の鉈は、日本列島で鉄器生産が始まる以前の舶載鉄器^{はくさいてつき}と考えられ、柄が完存する鉄製鉈としては、東アジアで最古の資料となる。

舶載鉄器には鉈の他、斧、鑿^{おの}などがあるが、当時の具体的な使用状況についてはほとんどわかっていないが、木器が多く出土している八日市地方遺跡では、精巧な造りの木器に残る加工痕から、弥生時代中期前半以降には、小型鉄器の使用が推測されてきた。今回の出土品は、装飾性の豊かな木製の柄が完存するとともに、当時の使用状況までもが分かる小型鉄器である。

今回の発見は、この時期に、小型鉄器が木工具として実際に使用されていたことが明らかになっただけでなく、弥生時代中期における鉄器の普及過程を考えるうえで、従来の認識に再考を迫る重要な発見となった。

3 保存処理について

- (1) 処理方法 真空凍結乾燥法
水溶液や水分を含む物質を急冷却して凍結し、減圧状態で昇華させて物体を乾燥させる方法。(インスタントラーメンなどを作る方法と同じ。)
- (2) 処理期間 約6ヶ月(経過観察期間含む)
- (3) 実施機関 (株)東都文化財保存研究所(埼玉県川口市)

4 八日市地方遺跡について

- (1) 所在地 石川県小松市土居原町、日の出町地内
- (2) 調査原因 北陸新幹線建設に係る発掘調査
- (3) 調査概要

平成27～29年度に実施した発掘調査は、北陸新幹線建設に伴いJR小松駅の東側を、北陸線に沿って遺跡を南北に貫く調査となった。

調査範囲の中では、集落を東西に貫流する川の右岸(北岸)に平地式建物などの遺構が濃密に存在する居住域があり、その北辺を取り囲むように多重の環濠が掘削されていた。

また、環濠の北および川の左岸(南岸)側には、^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓を中心とした墓域が広がっていることも確認した。

環濠に囲まれた居住域と川からは、弥生土器、玉作り関連遺物、木製遺物などの大量の遺物が出土した。

5 参考事項

「柄付き鉄製鉋」は特別公開の後、石川県立歴史博物館で開催される『**発掘された日本列島 2018 新発見考古速報**』に出品します。

会 期 平成30年8月4日(土)～9月9日(日)

会 場 石川県立歴史博物館

主 催 文化庁、石川県立歴史博物館、北國新聞社、全国新聞社事業協会

※埋文センターの特別公開については、歴史博物館と調整済み。



特別公開

小松市 ようかいちじかたいせき 八日市地方遺跡出土

東アジア最古

『え つ柄付き鉄製鉈てつせいやりがんな』

平成30年7月20日（金）～29日（日）

9:00～17:00

石川県埋蔵文化財センター 展示室

平成29年6月に小松市八日市地方遺跡から出土した、柄に装着されたままの鉄製鉈の保存処理が終了したことから、特別公開を実施します。

この鉈は木製の柄が完存する最古の鉄製鉈で、弥生時代中期前半（約2,300年前）のものと考えられます。

八日市地方遺跡では精巧な木製品が生産されていたことが分かっていますが、この鉈は、そうした木製品の加工などに使用されていたものと考えられます。

